

童心社主催「中国紙芝居講座」に参加して

絵本作家の和歌山静子さん、とよたかずひこさん、運営委員八名をふくめて総勢十三名のメンバーが、二〇一六年四月に中国を訪問。紙芝居講座を行いました。今回の旅は、長年中国との交流を続けてきた和歌山さんが昨年十二月に上海で講座を行い、紙芝居への熱意の高まりを受けて実現したものです。

あわせて図書館、幼稚園、ブックカフェ、地域の集会所などで実演を行いました。

上海報告

「私演します！ やります」会場全体から手が挙る。受講者の実演になると、どこでもこの光景になり、積極さに驚く。その上、初めてでも巧みに演じる。「上手だけど心がこもってない」酒井さんの言葉に会場中、意見がとびかう。心をこめるとは？ 大きさに演じないとは？ 作品を理解するとは？

紙芝居の本質に迫る深い議論の場ともなった。

子ども達への実演では、「長太 長太 長太 長太 長太（おおきくおおきくおおきくなあれ）」と大きな声がひびき、共感の世界が広がる。人と人が直接向かい合ってコミュニケーションをとる、紙芝居のすばらしさに気づいてもらえた。

また、南京大虐殺記念館を訪れる機会も得、紙芝居が戦争協力に使われたことを再認識した。紙芝居を平和のために演じたいと強く思う。（運営委員・愛知）

北京報告

「虹文庫」の活動のおかげで、上海の人たちは紙芝居にはなじみがある。でも北京では紙芝居そのものが新しい。そんな北京で紙芝居文化はどう受け入れられるだろう…？ でも講座がはじまったとたん、不安はいつぱんに吹き飛んだ。

受講生のほとんどは、絵本館や図書館で働く人や、幼児教育に携わる現場の人たち。実演者を募ると、上海同様たくさんの手が上がり、堂々と、抑揚のある美しい声で演じる人が多かった。抜き方、差し込み方の飲みこみも早い。「目の使い方について教えてください」と、思いがけない質問もあり、旺盛な好奇心に目を見張った。その中国で、今年初めて、童心社の紙芝居が六点出版される。版元は北京にある后浪出版社。今回の講座のために「日中子どもお話の花畑」を立ち上げ、紙芝居に力を注ぐ張翼さんと言う。「だからこそ作品を生かす演じ方をしっかりと学び、ひろめたいのです」

そしてこれから

上海、北京だけでなく、これから紙芝居を演じる人たちは中国全土に広がっていきます。そんな中、紙芝居文化の会に何ができるのか、さらに考えていければと思います。

（運営委員・神奈川）

*この講座は、「日中子どもお話の花畑」「新読研究」との共催で行いました。ご尽力頂いた中国の関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

北京組：絵本作家和歌山静子さん、運営委員3名 (1日目は上海組と合同)

日程	午前	午後
1	奥林幼稚園実演 60-70人 3-6才	海華小学校実演、万科アパート親子
2	(移動) 上海 → 北京	和平門幼稚園実演 2回各100人
3	紙芝居連続講座一日目 (中国北京出版創業園区) 幼稚園先生、等 80人	
4	紙芝居連続講座二日目 (中国北京出版創業園区)	
5	西城区子ども図書館実演	壹カフェ 30人 家庭向けワークショップ
6	絵本関連専門家との交流 30人程 (移動) 北京 → 上海	



和平門幼稚園にて

上海組：絵本作家とよたかずひこさん、運営委員5名

日程	午前	午後
1	奥林幼稚園実演 60-70人 3-6才	海華小学校実演、万科アパート親子
2	紙芝居講座 (浦南幼稚園) 幼稚園の先生 80-100人	
3	紙芝居連続講座一日目 (浦南幼稚園) 60-80人	
4	紙芝居連続講座二日目 (浦南幼稚園) 60-80人	
5	2-3才向けお話し会 親子 20組	楊浦図書館実演 親子 40-50組 3-6才
6	浦東図書館実演 200人 3-6才	虹文庫&ありんこママなど中日の親子



真剣な顔で紙芝居を選ぶ